朝日小学生新聞
2016年(平成28年)3月3日 木曜日

ここで起きたことを忘れないで

東日本大震災から5年

大川小

東日本大震災では子どもたちも命を落としました。なかでも宮城県石巻市の大川小学校では74人もの子どもが犠牲になりました。どうしてこんなことが起きたのか、命を守るための話し合いがいまも続いています。（今井尚）

74人の子どもが犠牲、なぜ？

【震災で亡くなった子ども893人】警察庁によると、東日本大震災で亡くなった人は全国で1万5894人（2016年2月10日現在、震災関連死はのぞく）です。そのうち子ども（0～19歳）は、岩手、宮城、福島の3県では893人にのぼります（15年8月末）。岩手県は167人、宮城県は625人、福島県は101人です。

大川小学校は北上川の河口にある全校児童100人の学校でした。海からは約4キロはなれた内陸にありました。学校の裏には小高い山があり、花や緑が豊かな環境でした。

東日本大震災は、2011年3月11日午後2時46分に太平洋三陸沖の海の底で大地震が起き、大津波が発生しました。津波が北上川を遡かの上って来ました。学校のすぐ近くまで来ていたのです。

ぼり、大川小にもやってきたのは、午後3時37分、地震から51分間の時間がありましたが、残っていた76人の子どもたちが避難を始めたのは、津波がきたわずか数分前でした。「山に逃げよう」という声もありながら、校庭で長い間待たされ、手おくれになったのです。

避難を始めてまもなく、ほとんどが全員が津波に流され、亡くなってしまいました。

東日本大震災では津波がやってきた学校が455校ありましたが、これからは記されず、委員長も「不十分だった」などと委員会の調査を認めました。

子どもを亡くした一部の家族は14年3月11日に報告を起こし、原因をさぐろうとしています。

校舎は、地震の揺れで1階の窓ガラスが割れ、机や椅子などが倒れ、ものすごくゆれました。

先生たちが避難を決めるのがおそかったことや、避難先を川の近くにしたことが原因だったとされるが、なぜ避難がおくれたのかなどは記されず、委員長も「不十分だった」などと委員会の調査を認めました。

子どもを亡くした一部の家族は14年3月11日に報告を起こし、原因をさぐろうとしています。

校舎は、地震の揺れで1階の窓ガラスが割れ、机や椅子などが倒れ、ものすごくゆれました。

先生たちが避難を決めるのがおそかったことや、避難先を川の近くにしたことが原因だったとされるが、なぜ避難がおくれたのかなどは記されず、委員長も「不十分だった」などと委員会の調査を認めました。

子どもを亡くした一部の家族は14年3月11日に報告を起こし、原因をさぐろうとしています。

文部科学省は13～14年に、学校ごとに「委員会をつくり、このことを話し合いました。その結果、先生たちが避難を決めるのがおそかったことや、避難先を川の近くにしたことが原因だったとされるが、なぜ避難がおくれたのかなどは記されず、委員長も「不十分だった」などと委員会の調査を認めました。

子どもを亡くした一部の家族は14年3月11日に報告を起こし、原因をさぐろうとしています。

伝え続ける佐藤敏郎さん

「ただいま」と言えるために

大川小のできごと伝え続ける人もいます。6年生だった次女のみずほさんを失った佐藤敏郎さんは、訪れる人を案内したり、全国を回って防災について話をしたりしています。

一「防災」とは「ただいま」を言うことです。あの日、2万人の人が言えなかった言葉です。「行ってきます」と「ただいま」は、セットで言ってもらいたい」と佐藤さんは話します。

「子どもたちの命を守るのは大人の責任」と言います。

小学生のみなさんには「大川小学校という場所で、みんなと同じくらいの子が犠牲になったことを忘れないでほしい。なぜ帰ってこないのかを考えてほしい。だからこそ、あの子たちが亡くなった意味を考え、そこから学ばなくては」と話します。

被災した大川小学校の校舎を保存するかどうかの話し合いも進んでいます。このできごとを後世に伝えるために残すべきだという意見もあれば、地元や遺族の中には心安らげる場にしてほしいと、解体を求めるかたもいます。

「石巻市長は保存と解体の両方の意見を聞き、3月下旬に結論を出す考えです。

訪れる人に事故の様子を説明する佐藤敏郎さん（右から2人目）　11年4月　©朝日新聞社